



京都大学 総合人間学部 広報

巻頭言

ニュートンとゲーテの色彩論の行方	学部長	江島 義道	2
------------------	-----	-------	---

特集 新入生へのメッセージ

歴史の曲がり角に立って	人間科学系主任	高橋 義人	4
新入生諸君へ	国際文明学系主任	愛宕 元	5
勉強でないとすれば、いったい何？	文化環境学系主任	木村 崇	6
学習と研究について	認知情報学系主任	宇敷 重廣	7
自楽自習	自然科学系主任	玉田 攻	8

退官された先生からのメッセージ

北一輝から夏目漱石へ	前学部長	宮本盛太郎	9
------------	------	-------	---

研究・教育活動紹介

究極の選択	国際文明学系	元木 泰雄	10
イチロー	認知情報学系	小田 伸午	11

付表

平成15年度 学部長 評議員 学系主任 学科長	13
平成14年度 総合人間学部卒業生の主な進路	14
平成15年度 2回生専攻分属名簿	15

巻頭言

ニュートンとゲーテの色彩論の行方

学部長 江島 義道



総合人間学部に入學された皆さんを心から歓迎します。皆さんのこれからの4年間の学生生活が有意義で充実したものになることを期待します。

総合人間学部は、人間に関わる問題を幅広く、総合的に教育することを目的として創設された京都大学では最も新しい学部です。京都大学には他に9つの学部がありますが、これらの学部は特定の専門分野を深く掘り下げて教育することを目的としています。それに対して、総合人間学部は、人間に関わる問題をより広く、専門横断的、複眼的に教育することを目的としています。この目的を実現するため、主専攻分野を学ぶとともに、主専攻とは別の分野を副専攻として学ぶカリキュラム制度を採用しています。特定の専門に偏しない広い視野をもった人材の育成が総合人間学部の教育目的です。

「広い視野をもつこと」、この重要性を示した学問的エピソードを紹介しましょう。

自然界は色彩に満たされ、その中に住むわれわれ人間は、様々な色彩を享受しています。色彩には、古くから多くの分野の人々（哲学者、物理学者、化学者、生理学者、心理学者、文学者、医者、美術家など）が興味をもち、色彩に潜む謎を解き明かそうとしました。その中で、色彩の科学的基礎を築いたのはニュートンとゲーテです。

ニュートンは、1666年、23才の時に、プリズムを使った様々の光実験によって色彩感覚を分析しました。様々の色覚現象や混色のもたらす色覚特性を詳細に分析し、その結果に基づき色覚のモデ

ルを構築しました。そして、光学という著書の中でその考えを述べました。ニュートンの色彩理論は、その後、多くの科学者に受け継がれ、検討と修正が加えられ、19世紀のはじめに、ヤング（医者）とヘルムホルツ（生理学者）によって、三色説（three-component color theory）として、完成されました。

三色説の要点は、視覚系の受容機構に分光感度（光の波調に対する感度）の異なる3種の受容器が存在し、色覚はこれらの光受容器の相対的反応強度できまるといふものです。この説は、現代でも通用するもので、カラーディスプレイ、写真、印刷など多くの色彩表現技術の基礎理論となっています。

一方、ゲーテは、文学者、思索者らしく、ニュートンとは違った視点から色覚を分析しました。見え方に与える人間側の条件について、徹底した観察と深い洞察を行い、色覚機構を探求しました。例えば、明るいところから暗いところへ移動したとき、ものの見え方がどのように変わるかなどです。昼下がりに急に映画館などの暗闇の世界に入り、空席を探すのに苦労した経験を、誰でも持っていると思いますが、このようなとき何が起こるかを詳細に観察しました。また、同じ色を見続けたときの色覚の変化を細かく観察しました。ゲーテは、このような知覚的体験に基づいて、1810年に色彩論という著書を発表し、自らの考えを述べました。

その要点は、「色には、正反対の性質をもつ三つの対がある。それらは、白と黒の対、赤と緑の対、黄と青の対である。対の性質を同時に備えた色は存在しない。」ということです。

さて、「赤味と緑味の色紙」と言うとき、皆さ

んは色紙の色彩を想像できるでしょうか。おそらくできないと思います。それは、赤と緑がお互いに正と負の関係で対をなしているからです。「もの」が正と負の性質をもつと言うとき皆さんがその意味を理解できないのと同じです。

ゲーテの色彩についての考え方は、ニュートンの場合と同じように、その後、多くの研究者に受け継がれ、検討・修正が加えられました。そして、最終的には、ヘーリング（生理学者）によって、1872年に反対色説（opponent color theory）として体系化されました。

反対色説の要点は、対を成す色に反応する3種類の神経機構が存在するという考えです。すなわち、赤と緑に反応する神経機構、また、黄と青に反応する神経機構、さらに、白と黒に反応する神経機構がそれぞれ存在するという考えです。

このようにして、色覚に関する考え方は、ニュートンの考えを源流とする三色説とゲーテの考えを源流とする反対色説に収斂しました

三色説と反対色説のどちらが正しいのでしょうか。ヘーリングの反対色説の提案を契機として、二説のどちらが正しいかに関して学問的論争が開始されました。

それぞれの説を支持する学問的事実が、多くの分野の研究者によって次々明らかにされました。しかし、いずれも、雌雄を決することはできませんでした。

論争の決着は、1960年代の二つの新しい手法による神経生理学的発見を待たねばなりませんでした。論争の開始からは実に約100年後、ニュートンの実験からは約300年後です。

一つは、三色説を支持する慶応大学のトミタらの魚の網膜細胞に関する発見です。他の一つは、反対色説を支持するベネズエラのスベスティチンと名古屋大学の御手洗らの同じ魚の網膜細胞に関する発見です。

これらの発見によって三色説と反対色説の論争に呆気ない決着がつけられました。それは、多くの研究者の予測を裏切り、玉虫色の決着でした。三色説も反対色説もいずれも正しいとするものでした。三色説を支持する神経細胞と反対色説を支持する細胞が両方とも存在し、それらは階層的構

造をなすというものです。網膜の初期の段階に三色説に対応する神経細胞があり、その後段に反対色説に対応する神経細胞があるとするものです。

100年間もの長い間、論争に雌雄が決せられなかったのは、次元の異なる問題を、同一の次元で二項対立的に考えていたところに原因があったわけです。

皆さんには、ニュートンとゲーテの色彩論にはじまった、色彩をめぐる数百年に亘る学問的論争の歴史的推移に注目していただきたいと思います。

入学された皆さんは、花を前にして、色彩が何かを思索するニュートンやゲーテの状況に良く似ていると思います。

皆さんの中のある人は、自然科学を志向して、ニュートンの方法によって自らの目指すテーマを探究されると思います。また、ある人は、人文科学、あるいは社会科学を志向して、ゲーテ的な観察手法によって自らの課題を追求されると思います。しかし、色彩の問題がそうであったように、多くの本質的な問題は、単一の側面からだけでは解決できないものです。

今日、我々が直面している多くの困難な問題は複合的で多面的です。とくに、人間に関わる問題はそうです。

したがって、人間に関わる問題を幅広く探求することを目的と掲げている総合人間学部に入學された皆さんには、ニュートンとゲーテのそれぞれの継承者達が長年に亘って学問的論争したこと、そして、論争の決着が新しい領域を切り開いた学問分野の研究者によってつけられたという事実を肝に銘じておいていただきたいと思います。

皆さんに強く希望することは、まず、自然科学的方法、人文科学的方法、あるいは、社会科学的方法のいずれかの一つの分野の専門を究め、そしてそれに加えて他分野の専門にも興味を持ち、視野を広げ、他の分野の人との共同によって学問的知識を高い次元まで止揚していただきたいことです。

総合人間学部は、そのための教育環境を皆さんに用意しています。

（認知情報学系 えじま よしみち）

特集 新入生へのメッセージ

歴史の曲がり角に立って

人間科学系主任 高橋 義人



いま、私たちは歴史の大きな曲がり角にたっている。ドイツ関係の仕事に携わっている関係で、私は旧西ドイツから東ドイツへ、旧西ベルリンから東ベルリンへ行き来することが多かった。そのときの息詰まるような緊張が脳裡に深くこびりついているだけに、1989年にベルリンの壁がなくなるなどということは想像もつかないことだった。ところが壁の崩壊以降、ソ連邦の解体、鉄のカーテンの消滅と世界的な大事件がつづいた。

あの当時、私は京大の学生に、いま私たちはフランス革命とその後の動乱にも匹敵する歴史の大きな曲がり角に立っている、それだけにこれから先の社会がどのような方向に進んでゆくのか、よく見究めなければいけない、と何度も語ったものだった。ところが「世界的な大事件」はそれにとどまらなかった。一昨年(2001年)の9月11日のアメリカでの同時多発テロ、それに続くアフガン戦争、そしてさらにまた起きようとしている戦争……。時代はこれからどこに向かうのか一向に分からない。

国内を見渡せば、80年代中頃のバブル景気に続いて、急速な景気の失速が起きた。またパソコンと携帯電話が急速に普及し、それらを持たなければ生活しづらい世の中に変わった。このように時代と社会が変わると、そのなかで生きている人々のものの考え方も大きく変わる。たとえばインターネットを例に取り上げてみよう。インターネットを用いて書かれた手紙は、便箋の上で書かれた手紙とは明らかに文体が違う。前者には基本的に用件が記されているだけで、時候の挨拶もなければ、近況の報告もない。じつに味気のないものが大半だ。しかしインターネットがあるおかげで、昔のように郵便を使って文書を

やりとりしていた時代よりも、用件が数倍か数十倍の速さで捗るようになった。インターネットによって仕事は明らかにスピードアップされるようになった。しかし、それとともに、人々はやさしい心配りを、ひいては「心」そのものを忘れてしまうようになったということも、あながち否むことができない。

私はどちらがいいかと言っているのではない。しかし、このように時代が変わると、そのなかで生活する私たちのものの考え方や、私たちの「心」までが大きく変貌せざるをえない。一昔前までは、まず人間個人個人がいて、それらの個人の総和として社会ができているという個人主義的な見解が趨勢を占めていた。しかし、そのような考え方は今ではもうあまりにも古臭い。

だからといって、時代や社会は勝手に一人歩きしてゆくので、自分たちはそれに引きずられてゆくほかない、といった一部の若者に見られる投げやりな態度、無気力な態度も感心できない。

当たり前のことのようにだが、人間はたしかに社会によって作られるが、社会は人間が作るものでもある。

本学系には「人間科学系」という呼称がついている。しかし今のような時代をしかと踏まえるとき、「人間科学系」でなされる仕事は、人間を、社会や歴史との交錯のなかで捉えるものと言えるだろうし、京都大学に入学してこられたみなさんも、そうした心構えで勉学に勤めなければ、新しい時代を切り拓くことはできない。

これからの時代がどのような時代になるのか、私にはまだ想像もつかない。しかしこれからは、新入生のみなさんと一緒に新しい時代を模索し、そのなかで人間の新しい生き方を希求してゆきたいと考えている。

(たかはし よしと)

新 入 生 諸 君 へ

国際文明学系主任 愛宕 元



今年度より総合人間学部は従来の4学科制から5学系制へと組織が改められました。人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系の5学系で、新入生諸君は2回生への進

級時にそれぞれ希望する学系及びその下の講座に所属することになります。したがって1回生の1年間にじっくりと自分の適性を見極めて所属を決める時間的な余裕があるということになります。また諸君は文系、理系といった異なる入学試験の関門をくぐってこの総合人間学部に入ってきた訳ですが、所属を決める際には受験時の文系と理系の区別とは全く関係なく、自由に学系を選択できます。これを俗に「混浴」方式と称しています。つまり入口（入試方式）は別々でありながら、中に入ると文系、理系の区別なく一旦は一堂に会するからです。これは京大の他学部には例を見ない総合人間学部のユニークな点です。

さて諸君が京大の10学部の中であえて総合人間学部を選んだのには、各人それぞれの理由があるはずで、本学部で学ぼうというしかるべき目的をもっていると思います。そこで総合人間学部で学ぶことについて、私の専門である中国史にいささか牽強附会ではありますが、期待することを述べることにしましょう。中国の歴史に関しては、魏・呉・蜀漢が鼎立した三国時代についてはそれなりの知識があるでしょう。しかし、諸君の三国時代に関する知識は、恐らくは白話小説『三国志演義』に基づいた曹操孟徳を悪玉、劉備玄德を善玉という、史実とは大きく異なる虚構であろうと

思います。歴史上の曹操、劉備、孫権の実像は、諸君がイメージしているそのような人物像とは大違いで、劉備と孫権の二人を合わせても、とうてい曹操の力量には及ばなかったのです。諸君たちの多くは劉備が大好きでしょうから、やや意外に思うかも知れませんが、『演義』はもともと庶民を相手とした講談のネタ本をまとめたもので、強者への反撥、弱者への同情という庶民一般の性癖、いわゆる「判官鼻眞」に完全に迎合したものですから、曹操がますます憎まれ役にされるとともに、劉備はことさらに正義の人、善意の固まりとして作り上げられてきたのです。それでは曹操の歴史的な実像とはどのようなものでしょうか。まず卓越した政治力、とくに人材登用においてそれは顕著です。つぎに戦略のみならず、戦術にも秀いでた軍事的能力を挙げることができます。乱世における指導者としての資質において、曹操は他の二者をはるかに凌駕していました。さらに知識人必須の儒家的な教養、詩や賦といった韻文を創作する文学的才能、その他にも書家、音曲、囲碁、射弓、建築設計などにも一流の才能を発揮しています。このような多彩な曹操の才能は、それまでの「一芸に秀でる」といった漢代の人間像を超克した新しい時代の人間像を先取りするものでありました。私が新入生諸君に期待するのは、このような多彩にして総合的な曹操的存在を目指して欲しいということです。虚構の悪玉としての曹操ではなく、上記のような曹操の実像からは、多くの学ぶべき点があります。諸君のもつ潜在的能力を多彩に花開かせる学びの場として、総合人間学部がまさに恰好の場となることを願っています。

(おたぎ はじめ)

勉強でないとすれば、いったい何？

文化環境学系主任 木村 崇



神から正邪の判定権をゆだねられていると自認する米大統領がしゃべっている。思った通り「正義の剣」を振り回すことにしたらしい。画面が変わって日本の首相。記者の質問に答え、米英の

「苦渋の決断」は正当だと繰り返す。いつもの断言的なもの言いが羅列されるけれど、論拠も論理も見えない。そのかわり、これより48時間以降イラクでふたたびおびたしい人の命が奪われだすということだけは、はっきりしていた。

その2週間ほど前だったろうか、用事があって事務室へいくとベッカー教授がパスポートをコピーしていた。上部に偽造防止のための細かな穴を穿った透かしのあるもので、つい「アメリカのパスポートはしゃれていますね」と軽口が出てしまった。「そうでしょうか」と受けて彼はすこし険しい顔つきになり、米国パスポートを所持するのが恥ずかしいという意味のことを言った。生成文法で有名なチョムスキーをはじめアメリカの知識人の多くが、ブッシュ政権のなりふり構わぬ力ずくの政策に反対しているのにたいして、大衆の大多数はブッシュ支持である。この米国社会の「不幸な分裂」に話題が及ぶと、彼は「そして砂漠で人を殺し、命を落とす米国兵たちは、その愚かな大衆の息子たちなんです」と、沈んだ声を発した。

ロシア革命期前後に活躍した詩人に、マヤコフスキーという人がいる。誕生間もないソ連という国は、当時世界中いたるところで白眼視されていた。マヤコフスキーは新生社会主義国の真っ赤なパスポートを持って国境を越えた。旅券検査のと

き、外国の官憲は蔑んだまなざしを詩人に向けた。しかし彼はある物語詩を「ぼくはソビエト連邦の国民だ！」という詩句で結んでいる。ベッカーさんと話をしながら、私はふとマヤコフスキーを思い出していた。パスポートに対する二つの異なった思い入れは、どう説明すればよいのだろうか。そういえば、私はこれまで「日本国民である本旅券の所持人」という文言に深い思いを抱いたことなどなかった。

ブッシュが誇りとするものに、おなじ米国籍の教授が恥をおぼえる。世界中いたるところで蔑まれる国があり、一方、それぞ僕の国だと胸を張る詩人がいる。こういう現象を根元的かつ総合的に理解するためには、何かこう、極度に研ぎ澄まされた、特殊な眼力のようなものが必要となるだろう。自然科学における、真理探究の方法とは根本的に違った何かだ。

すこし観察すれば、私たち人間を巻き込んでいる諸現象のほとんどすべてに、類似の問題が潜んでいることにすぐ気づくであろう。「文化環境学系」というのは、一言で言えばこのような問題群(プロブレマチカ)を研究対象とする学問領域に属していると思ってよいだろう。身近でしごく人間的な問題だけれど、はたして的確で有効な解決方法はあるだろうか、というような事象に関心の向く人は少ないにちがいない。中高での教育はながらく、その対極にあるようなことに取り組むことこそが勉強だと思わせてきたからである。しかし大学でやるのはもはやそのような勉強ではないのだ。では何か。冷たいようだが、それは君たち自身が見つけ出すことである、としかいえない。

(きむら たかし)

学習と研究について

認知情報学系主任 宇敷 重廣



大学での勉学は、単に知識を吸収するだけでなく、研究する能力の獲得を目標とします。学習と研究は似て非なるものです。学習は、その文字をみても想像できるように、「学」は子供の頭に

何やらを詰め込む様子ですし、「習」は巢の上で、雛鳥が羽をバタバタさせて、飛ぶ練習をしているところです。いずれにしても、先人の知識あるいは技能を受け継ぐことです。それに対して、研究は、どこにもないものを探さねばなりません。インターネットなど、すでに存在する情報を探すための技術はずいぶん進歩していますが、そうした情報から、確かなもの、意味のあるものを見いだす能力が必要ですし、何よりも、自分の頭脳を活用するのが大事です。人間の頭脳は、様々な能力を持っていますが、学習の段階から学問の段階に上るには頭脳の使い方も発展させねばなりません。

自分にとって明らかに思える事でも、それは皮相的な考え方であって、さらに一步踏み込んで根本を考え直すとじつは思いも懸けない真実がかくれているということは少なくありません。とくに若い諸君は、判断力が育つ前に受け入れてしまった考え方が無意識の内に潜んでいますから、それらを一一つ自覚しなおす、という過程が必要です。既成の考え方を打破するのは、口で言うのは簡単ですが、自分の座っている座布団を持ち上げるようなものですから、目から鱗を落とすのは容易ではありません。

研究者となるための適性の一つとして、理論や知識のわずかな整合性の乱れを感じ取る感性と、それを追求する強靱な思考力があります。疑問を発見すること。そして、それにこだわること。「何か変だけど、まあいいか」という妥協をする人は、学問をする基本的適性に欠けていると思ってください。何となく考えたくない、と言った話題もあるかも知れませんが、学問にはタブーは不要です。どんな問題にでも誠実に直面するのが良いのです。

学問は孤独な作業です。勉学には限りなく時間がかかります。世の中のことを知るにも、多くの書物を読んで下さい。本代を惜しんではなりません。価値ある本を見いだす眼力が大事ですが、少々の無駄をしても、経験を積みばだんだん良い本を見付ける秘訣がわかってきます。そうして、幅広い見方を身につけるよう心掛けてください。受験勉強に集中していたのだから、世の中のことをあまりわかっていなくても恥じることはありません。生半可な知識で付和雷同するほうが恥ずかしいのではないのでしょうか。

数学や語学は、知識よりも脳の機能にかかわっていますので、若いころにしか身につけることができません。私の経験では、数学の能力は、20歳位まで、語学は25歳位までに身につけないと、ものにならないようです。私の場合、学生だったころ、どうしても読みたい一冊の本があり、その本を読むために一つの言語を学びました。言葉は文化や文明の窓口です。窓が開くとそこから視野も開けますし、楽しみも得られます。外国語の学習は、頭脳の鍛練としても効果があるように思います。若いころの苦労は買ってでもせよと言うように、努力を重ねることで能力を養うことになるのです。教育経験のある先生なら、そうした教育のパラドックスを知っていて学生に相対してくれるのです。

こうして獲得した能力は一生役に立ちますので、投資効果は大きいのです。勉学も戦略的に考えるとすればぼんやりと受け身に流されるのではなく、目先の新奇さに惑わされること無く、基本となる科目に真剣に取り組んで下さい。せっかくの機会を取り逃がしてしまったら、取り戻すのは困難です。

もうひとつ、大事なことがあります。それは、先生方を活用することです。総合人間学部には、多彩な先生方がいます。学生諸君が熱意を持って積極的に訪問すれば、きっと相談ののってもらえるでしょう。どんなに大きな鐘でも撞かなければ音はでないものです。

(うしき しげひろ)

自楽自習

自然科学系主任 玉田 攻



御入学おめでとうございます。長い準備期間に良く耐え、努力が実り、入学試験に合格されたことに、敬意を表したいと思います。私も入学当初、ようやく努力が実を結んだ達成感、受験勉強から解放され自由を得た安堵

感、それに新しい大学生活への不安感が交叉する何とも言えない複雑な感覚に襲われたことを思い出します。

考えてみればもう40年も昔の話で、今の新入生にとっては大昔どころか影も形も無いころの事だ。私は某私立高校から唯一人この大学に入学してきて、右も左も分からないまま入学式に臨んだ。その時の大学総長は、昨年の広報に津田謹輔先生も引用しておられる、平沢興先生であり時計台の2階にあった講堂で祝辞を述べられた。その折、正確な言葉使いは忘れたが「大学とは自学自習をするところであり、大学の授業に出るよりも早く下宿へ帰り自分で勉強するのが本分である」と言う意味のことを新入生を前に堂々と話された。これを聞いた私は大きな衝撃を受けた。短絡的に前部を受け取れば、大学の総長が授業に出る必要はないと保証した内容であり、後半は自学自習の重要性を説いたものである。私はこれまでに経験をしたことの無い新鮮さと、ああ、大学に入学したんだという感動を覚えた。ちょっと背筋を伸ばして大人になったような気もした。以来、大学時代は劣等生で過ごしたが、少なくとも自学自習の気持ちはしっかりと根を下ろしている。

私達は日々何らかの仕事が要請されて忙しくこれをこなしている。諸君もこれまで、何らかの形で社会や学校、時には両親より「学生の本分は学問にあるため頑張って勉強しなさい」という圧力を陰に陽に感じていたに相違無く、よくこれに覚えて今日の入学になったことだろう。しかし本当に勉強がそんなに大事なのだろうか。動物や鳥は勉強しなくても、人間のように他の生き物の生存

を脅かすほど地球環境を破壊することなく、立派に自然と調和して生きている。良い子、真面目な子が立派になるという保証も無い。むしろ多くの大学教官がこのような学生を持て余しているのが現状だろう。

最近学生諸氏と話をしていると、「とりあえず」という言葉をよく耳にする。これは何かをするとき、または選択するとき、根本的な解決を避け、「とりあえず」方向性を得るときの便法である。英語でいえばshort term solutionというところであろうか。「とりあえず」方向を決めると次の問題がでてくる。根本的な解決や解答を得るのは時間もかかり、また辛いことでもあるので、「とりあえず」あるところまでは進み解答を得る。そのうちまた次の問題がやってくる。結局またも「とりあえず」を実行する。これを繰り返すうちに、もう自分が何をやっているのか分からなくなる。あっという間に4年間が過ぎ去り、自分の進路をきめなければならない局面になり、信念や人生観が希薄なことに気がつく。

もうここまで言うと勘の良い諸君は私が何を言いたいのかが分かるだろう。このまま走るのを止めよう。日々の忙しさの中に身を置き、社会の要請(?)に良い子になることを止めよう。学生の「特権たる自由と暇」を心に与えて、まず退屈をしよう。退屈は心の内面を持ち上げる。それでもじっと動かずに、内面にある声に耳を澄まそう。耳を澄まさなければ魂の声は聞こえない。次第に心の奥に潜んでいた魂が目覚まし、話し掛けてくる。自分が本当は何をしたいのか、何をすべきかが聞こえ出す。最初は小さな声でささやき、段々、はっきりと聞こえ出す。長く忘れ去られていた魂の声こそが自分自身だ。自分の足で立ち上がり歩き出す時がきた。自楽自習の汽笛が聞こえる。

あっ、しまった。またも「とりあえず」こんな文を書いてしまった。

(たまだ おさむ)

退官された先生からのメッセージ

北一輝から夏目漱石へ

宮本盛太郎



研究の推移について報告したい。若い日には二・二六事件の黒幕として処刑された北一輝の政治思想について研究していた。その後、日本の国家学とドイツの国家学との比較、自由民権期以後の日本知識人の西欧観の

特質の研究、キリスト教社会主義者の安部磯雄とキリスト教から神道を信じる人となった鹿子木員信の思想の軌跡の比較、日本人のイギリス観の特徴と来日したイギリス人の日本観の特徴の研究、現代自由主義の諸相の研究、軍人で平和主義者であった水野広徳の研究などを行い、最近では日本の文豪の研究に移り、夏目漱石をアメリカの著名な哲学者・心理学者であるウィリアム・ジェイムズと比較した。

専門分野を移したとき、総合人間学部のありがたさを知った。たとえば、ウィリアム・ジェイムズの弟の文豪、ヘンリー・ジェイムズについて知ろうとすると、総合人間学部には世界トップクラスの優れた研究者がおられ、いながらにして多くの知識を得ることができる。また、地理上の知識を得ようとする、その道の専門家にお電話を差し上げるだけで、たちどころに答えが返ってくるのである。

最初に研究した北一輝と最後に研究した夏目漱石との間には、どのような関係があるだろうか。

北は倫理的有機体としての国家の至高性を高唱する国家主義者であり、漱石は国家の意味を否定するアナキストではなかったが、原理的には国家より個人に価値を置く個人主義者だった。両者

の政治思想は基本的に異なるが、よく読んでみると共通する面もある。ロンドンに留学中、漱石は社会問題に注目し、総合的体系的思想の構築を目指していた。北もその数年後に出した処女作で、社会主義論を総合的体系的に展開した。二人は、明治維新に注目し、青・壮年層に変革の担い手を見出した。両者は、天子の絶対性を否定し、孟子の一夫紂論を肯定している。二人はまた後年極限状況に注目した。北の極限状況とはクーデターによる国家改造であり、漱石の極限状況とは複数の同性が一人の異性を愛することを巡って生じる罪の問題である。

このような共通点はあるが、両者の思想の根源的部分が異なることはいうまでもなく、その違いをもたらした決定的なものは、国家観の相違にあった。

北と漱石が会ったという情報は現在までのところ残念ながらないが、興味深いのは、漱石の『野分』という作品である。1906年の12月に書かれ、翌年1月に発表された。主人公は白井道也といい、坂巻という人物がモデルだったことはすでに指摘されているが、北が白井でもおかしくないような人物である。『野分』の中に、中野輝一という人物が出てくる。漱石の作品が二・二六事件の直前に執筆されていれば、そのころ北は東京の中野区に住んでいて、一輝という号で知られていたため、名前の由来は北一輝であるという議論が可能であるが、残念ながら、1906年には、北は中野には住んでおらず、北一輝とも号していなかった。北の本名は北輝次郎である。

総合人間学部の一層の発展を祈念致します。

(前学部長 みやもと もりたろう)

研究・教育活動紹介

究極の選択

国際文明学系 元木 泰雄



重大な秘密を隠していると嫌疑をかけられた人物は、その疑惑を断固否定する。疑う方は強い軍事的圧力を加える。疑われた方は、それに抗し切れずに妥協を重ね、戦争の回避を図る。しかし、疑った側の目的は、実は

最初から戦争にあった。

奥州藤原氏の最後の当主泰衡は、父秀衡が匿った源義経を殺害し、頼朝の歡心を買おうとしたが、かえって頼朝に攻撃の口実を与える結果となった。大軍を招集しながら後白河法皇の許可が得られなかった頼朝は、「軍中、將軍の令を聞き、天子（天皇）の詔は聞かず」という老臣大庭景能の進言を採用した。こうして、二〇万とも称される大軍が三方面から奥羽に侵入し、奥州藤原氏は滅亡していった。文治五年（一一八九）のことである。泰衡は、判断を誤り、奥州藤原氏の滅亡を招いたとして、日本史上で最も評判の悪い人物の一人となってしまった。はたして、彼は単に優柔不断で、先の見通しを欠いた政治家だったのであるか。

奥州藤原氏の拠点平泉は政治都市である。同時に宗教都市でもあった。奥州藤原氏の初代清衡は、都市計画の中心に自身の墳墓堂である中尊寺を据えた。そして、代々の当主によって政庁の近隣に毛越寺・無量光院などの大寺院が次々と建立されていった。政務と仏教が密接に関係していたのである。これは、平安京において、東寺・西寺を除いて、平安末にいたるまで白河・鳥羽などの京外に大寺院が建立されたことと大きく異なる。

京では、仏教勢力の政治介入を防ぐとともに、葬送と関係する寺院をケガレを忌避する天皇の政務空間から排除したのである。奥州藤原氏と同時

代、代々の院は原則として京中で政務を行い、墳墓堂の所在地鳥羽は仏事・保養の地であった。後白河によって、ようやく京外の墳墓堂の所在地法住寺殿での政務が通例となった。平氏が京外の六波羅に拠点を築いたのも、墳墓を伴う寺院を擁したためであり、河内源氏が京中の六条堀河に拠点を有したのは、居館のみであったからである。

清衡が中尊寺を中心に、仏教と政治を一体化した背景は何か。その願文から考えれば、前九年・後三年合戦という二つの大規模な戦争で命を落とした人々に対する追悼の念が根底にあったことは疑いない。彼の父藤原経清、外祖父安倍頼良とその一族は、前九年合戦で謀叛人の汚名を着せられて殺害された。後三年合戦の最中、妻子を異父弟家衡に殺害され、その家衡一族も激しい戦争の末、陸奥守源義家の前に虐殺されている。こうした痛切な体験が、平和を希求する政治体制を成立させた背景にあったことは疑いない。

翻って文治三年（一一八七）。頼朝の追求を逃れた義経を匿った秀衡は、その死去に当たって義経を主君とし、嫡男泰衡と庶兄国衡が協力して仕えるように遺言した。頼朝に対抗する幕府構想とする説は、鎌倉幕府成立という結果から遡及させた見方に過ぎない。頼朝の外圧に対し、義経の下で兄弟の結束をはかるとともに、院近臣義経の擁立で後白河との連繫を示したのであろう。戦争の決意とも、武威による抑止とも取れる。泰衡はそれに背いて、義経を殺害し頼朝に妥協を図った。たしかに泰衡は奥州藤原氏当主として敗北と滅亡の責めを負わねばなるまい。だが彼の選択を単なる不明・無能の所産と称してよいのかどうか。奥州藤原氏に脈々と継承された戦争回避という伝統に従った、最後の努力のように思えてならない。

（もとき やすお）

イチロー



アメリカ大リーグで3年目のシーズンを迎えるイチロー選手。彼のランニング技術を称える記事がシアトルの地元新聞、SEATTLE POST-INTELLIGENCERに載っていた。タイトル

は、「シアトルのX-man」。

イチローのランニング技術について語るのは、マリナーズの1塁ベースコーチJohnny Moses氏である。「イチローほど1塁ベースを正確に踏む選手はいません。それはまさに芸術品です。ウソだと思ふなら賭けをしてもいいのですが、もし1塁ベースの角に“X”印を付けておくとすれば、彼は必ず毎回“X”の上を踏むのです。シングルヒットならば、イチローは1塁ベースの右手前の角(図の1の位置)を左足で踏みます。必ずそうです。2塁打、3塁打の場合は、左肩を2塁ベースの方に傾けて、1塁ベースの左手前の角(図の2の位置)を踏みます。毎回そうです」。

ここで質問です。皆さんは、イチロー選手が2塁、3塁を狙って1塁ベースを回る場合、どちらの足で踏むと思いますか？右足でしょうか。左足でしょうか。

記事にはどちらの足で踏むかについては書いてなかったが、ビデオを見ると、1塁ベースの左手前の角を踏むのは、「左足」です。日本の野球界では、1塁ベースを回るときは、右足で踏むのがいいのか、左足で踏むのがいいのか、たびたび議論になるそうであるが、結論は出ていない。おそらく、右足と答える人が多いのではないだろうか。

ここから先は私の考えであるが、右足と答えた人は右足で「蹴って」回るという感覚ではなからうか。左足と答えた人は、左に身体を傾けて左足

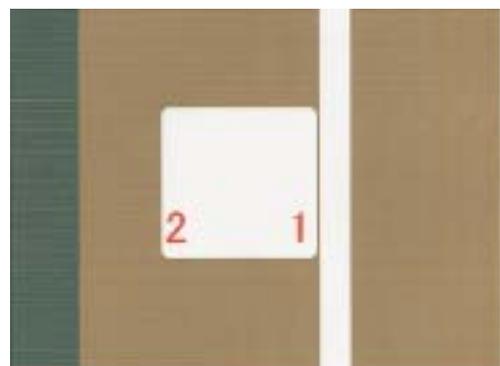
認知情報学系 小田 伸午

で「踏んで」回るという感覚であろうと思われる。皆さんは、まっすぐ走ってきて走る方向を左に変える場合、右足で蹴って左に行きますか。それとも、左に倒れるようにして左足で踏んで方向を変えるでしょうか。

陸上競技でコーナーを走る場合の技術について10年前に世界のトップスプリンターだったカール・ルイスはコーチングビデオの中で、以下のように語っている。「コーナー走でやってはいけないのは、右足で蹴って、体幹をねじって右肩を内側にクロスさせるような動きです。コーナー走といっても直線走と同じです。違うのは身体を左に傾けながら内側の左足で踏むようにすることです」。イチローの1塁を回るコーナー走とまったく同じである。

イチローは盗塁の名手でもある。1塁ベースから離れて構えたときに、1塁に近いのが左足、2塁に遠いのが右足である。身体を向けた方向に対して右横にスタートを切るのが盗塁である。陸上競技の短距離のスタートのように最初から走る方向にまっすぐ身体を向けておくことはできない。投手から牽制球がきたら1塁ベースに戻らなければならないからだ。

日本人野球選手の多くは、盗塁の場合、左足で



本塁方向から見た一塁ベース

「蹴って」右足から踏み出してゆく。地面を蹴ってゆくの、カんでガガガというイメージである。ところがイチロー選手は、右足および右股関節に体重をさっと乗せ、右足で「踏んで」2塁側に倒れ込むようにしてで出てゆく。力まずにするすっと出てゆく。牽制球がきたら、左足で踏んで左に倒れこみながら戻る。この場合も、右足で蹴って戻ると遅くなる。バレーボールの横方向へのレシーブ、サッカー、ラグビー選手などのサイドステップ、サッカーのゴールキーパーやテニス、バドミントンなどの横への動きなど、みなそうである。我が国のスポーツは、カんで蹴って移動する感覚を無意識の内に認めて誰も疑わない。

マリナーズのコーチは、イチローのベースランニングは本能であると語っている。イチローは、高校時代に気が付いて以来、無駄を削ぎ落とす努力を積んできたと言った。本能にみえて、実は研ぎ澄まされた感覚と訓練の賜物なのである。

以上、私のスポーツ科学の教育・研究の切り口を紹介したが、詳しく知りたい方は、スポーツ科学とスポーツ現場を繋ぐ「運動科学」の講義を受講するか、その講義テキストの「運動科学」をご覧ください。

(おだ しんご)

付表

平成15年度 学部長 評議員 学系主任 学科長

学 部 長 江島 義道 教授

評 議 員 鯨岡 峻 教授 富田 博之 教授

学 系 主 任

人間科学系 高橋 義人 教授 認知情報学系 宇敷 重廣 教授
 国際文明学系 愛宕 元 教授 文化環境学系 木村 崇 教授
 自然科学系 玉田 攻 教授

学 科 長 人間学科 富田 恭彦 教授 基礎科学科 杉万 俊夫 教授
 国際文化学科 木村 崇 教授 自然環境学科 津田 謹輔 教授

委 員 会 委 員

学生厚生委員会

松田 英男 助教授 奥田 敏広 助教授
 小田 伸午 助教授 前川 玲子 助教授
 元木 泰雄 助教授 村中 重利 教 授

(印は、委員長を示す。)

学部広報委員会

立木 秀樹 助教授 服部 文昭 助教授
 岡 真理 助教授 西垣安比古 助教授
 杉山 雅人 助教授

(印は、委員長を示す。)

平成14年度 総合人間学部卒業生の主な進路

03.3.10 現在

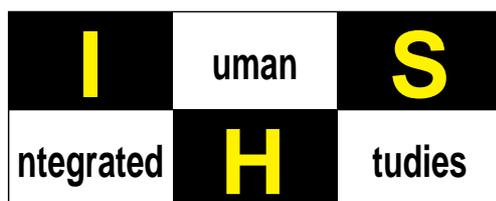
	人間学 科	国際文化学 科	基礎科学 科	自然環境学 科
進学者	京都大学大学院 人間・環境学研究所 6(2) 京都大学大学院 経済学研究所 1 早稲田大学大学院 文学研究科 1(1) 大阪大学大学院 経済学研究所 1 慶應義塾大学大学院 法学研究科 1 神戸大学大学院 総合人間科学研究所 1(1) 東京大学大学院 教育学研究所 1(1)	京都大学大学院 人間・環境学研究所 10(5) 東京大学大学院 総合文化研究所 1(1) 筑波大学大学院 地域研究科 1(1) 神戸大学大学院 国際協力研究科 1(1)	京都大学大学院 人間・環境学研究所 8 京都大学大学院 理学研究科 1 京都大学大学院 情報学研究科 3 京都大学大学院 経済学研究所 2 大阪大学大学院 理学研究科 1 名古屋大学大学院 多元数理科学研究科 1 北海道大学大学院 文学研究科 1	京都大学大学院 人間・環境学研究所 14(5) 京都大学大学院 理学研究科 2(1) 京都大学大学院 工学研究科 3 京都大学大学院 生命科学研究科 1 京都大学大学院 エネルギー科学研究科 2(1) 京都大学大学院 情報学研究科 1 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究所 1 京都大学大学院 医学医療短期大学 1 工学研究科・研究生 1(1)
計	12(5)	13(8)	17(0)	26(8)
就職先	大阪大学、マイクログソフト 鳥取市役所、D&I情報システム リクルートエイブリック[2] 万有製薬、UFJ銀行、滋賀県庁 経済産業省、日立製作所、警視庁三菱 重工業、朝日新聞社、内閣府イーオン、 アクセンチュア 名古屋市役所[2]、商船三井 エム・アイ・ティ、新日本製鐵、 JRR九州、共同通信社、佐賀県庁	京都成安学園、NTTデータ 福岡家庭裁判所、森永製菓 三井トラストファイナンスグループ 子育て支援研究センター、電通 エム・アイ・ティ、スズキ NOVA、伊藤忠商事、NHK 公文教育研究会、東京商船大学 日本写真印刷	白鶴酒造、NECソフト、大広 日本生命、M・S・T、NEC	フジック、京都市教育委員会 防衛庁、日本データリンク 社会就労センター リクルート
計	25(6)	15(7)	6(2)	6(2)
合計	卒業者 142(40)名	進学者 68(21)名	就職者 52(17)名	その他 22(2)名

注：()内は、女子を示し内数・進学先については、聴講生・研究生及び専門門生も含む
就職先内訳欄 []については人数を示し、男女別の表示は省略。

平成15年度 2 回生専攻分属名簿

学科	専攻	人数	氏 名																	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10								
人間学 学科	人間存在論	2	新家 梓	田中 秀典																
	人間関係論	5	秋山 励	石川 りえ	川上 大介	高橋 顕也	西村 菜美													
	創造行為論	8	内田 直樹	大石 晋	徳永 亮	樋浦 真吾	藤井 直	松本 敬弘	松本 哲也	宮口 雄人										
	生活空間構造論	5	小林 洋介	中原 有輝	林 宏美	藤原 照沙	水野 康一													
	社会システム論	28	芦澤 泉	機木 良太	稲垣 円香	春日あゆか	河合 悠祐	川嶋 良典	小端あゆ美	後藤 智久										
				田中 佑一	寺田 聡	十時 啓	富田 絵理	豊田 絵美子	中村 太一	南河 涉	西川 有美									
				福島 豪	福西 亮太	藤岡 陽子	藤本有里香	藤永 佳未	森宗 佳己	山田美由紀	リム・ポール ライオンセント									
	学 科 計	48																		
	文化原論	3	大久保友博	横山 元秋	吉田 城男															
	文化人類学	7	稲垣 智史	潮田 知彦	小野 邦彦	是枝 邦洋	坂本 洋輔	武田 龍樹	田中 葉子											
文明形成論	0																			
現代文明論	6	浅澤加津沙	氏 昂将	熊本 拓矢	佐藤由香里	竹下 智視	増田 健史													
言語記号論	3	笠原 誠	染木ヨ八木	高橋 暁彦																
文芸論	0																			
日本文化・社会論	1	太田 由佳																		
中国文化・社会論	2	塚本明日香	野中 ふみ																	
東欧圏文化・社会論	0																			
西欧圏文化・社会論	1	吉川 豪介																		
アメリカ圏文化・社会論	3	有森由紀子	宮脇 裕子	渡 寛法																
学 科 計	26																			
基礎科学 学科	人間情報論	14	一原 理彦	伊野 麻衣	小野 智史	門脇 大輔	神原 洋子	坂本 泰彦	新明 優香	堤 久美子										
	数理と情報	7	根本 学	原 庸介	山本 恵嗣	横井 隆														
	物理科学	7	岩間 心平	河合 浩樹	小林 義明	仲野 潤一	西海 敬介	密井 浩												
	学 科 計	28	伊藤 玄	北畑耕太郎	黒豆 智也	嵯峨根多美	高田 哲也	福岡幸太郎	藤田 大樹											
自然環境学 学科	物質環境論	6	青野慧志郎	喜田 泰史	鈴木 克明	時田 智	春木 秀仁	藤原 真人												
	地球科学	3	岸本 督司	眞壁 輝夫	三井 雄太															
	生物科学	9	石田 遥介	大塚正太郎	岡田 友城	小川 睦美	小倉 匡俊	清水 瑠平	富田 ちえ	林 裕志	廣田 孝幸									
	環境適応論	17	市川 靖	越智 昭仁	勝原 洋二	小佐田佳織	児玉 真美	佐藤 絵理	田中 豊之	土屋 真司	則安 梨才									
	学 科 計	35	久枝 宏	牧 亜紗子	松井 廣太	松本 幸治	松本 竜平	持田 恵梨	山城 文											
合 計	137																			

網掛は転入者を表す。



編集後記 総合人間学部は今春、組織改変を行ないました。新1年生から、これまでの4学科制が5学系制に移行し、学部所属の教員が大学院の人間・環境学研究科所属になりました。

広報委員会も再編成されましたが、その再編の過程で、新入生歓迎号である今号の発行が大幅に遅れてしまいました。広報委員会委員長として、まず読者のみなさまにお詫び申し上げます。

新委員会になって、『広報』の今後のあり方についても見直しが行なわれました。惰性で発行するなら廃止をという意見から、学部・大学院広報として発行などさまざまな意見が出され検討が重ねられました。その結果、学部広報は、教員が学部の学生のみなさんに、教育について、研究について、そして人生について、その熱い思いを伝える貴重な媒体であることが確認され、今後もその伝統を踏襲し、『総合人間学部広報』という従来どおりのタイトルのまま、これまでの年3回発行を2回にして継続することになりました。

リニューアル第1号となる次号は11月頃に発行の予定です。みなさんの意見を取り入れながら、紙面の充実を図ってゆきたいと思います。どうぞ暖かい目で見守ってやってください。（岡真理記）

**人間・環境学研究科
総合人間学部 広報委員会**